

じつきょう

商業教育資料 No. 89 通巻377号

大阪ビジネスフロンティア高等学校の開設について グローバルビジネス科のめざすもの

大阪市長天王寺商業高等学校長
木口 誠一

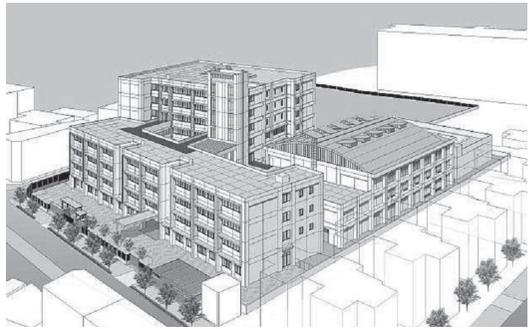
はじめに

平成 24 年 4 月に大阪市立の新商業高校が開設される。校名は「大阪ビジネスフロンティア高等学校」（以下 OBF と表記する）、設置学科は「グローバルビジネス科」（1 学年 8 クラス）である。校名は公募し、応募があった 147 種類の中から、大阪から世界に羽ばたくビジネスリーダーを育成したいという願いと、新しい価値を生み出すフロンティアスピリットに富んだ人材を育成したいという願いから「大阪ビジネスフロンティア高等学校」が選定された。学科名については、現在のビジネスはグローバル経済を前提としており、広い視野をもって、国際社会で活躍できるビジネスリーダーを育成するという観点で「グローバルビジネス科」と定められた。

この高校は、大阪市立の 3 つの商業高校（東商業、市岡商業、天王寺商業）を再編統合して開設されることから、伝統を活かしつつも、新しい商業高校のコンセプトを打ち立てることが求められた。平成 18 年 12 月の新商業高校構想具体化委員会の「まとめ」をもとに、基本設計段階から大学や産業界の参画を得て検討を進め、「商業高校と大学を結んだ 7 年一貫教育」を柱にした教育の構築をめざすことと

なった。

また、最新の施設設備を備えた新校舎を建設することとなった。



—校舎完成予想図—

1. 7年一貫教育がめざすもの

(1) 大阪市のビジョンの基底にあるもの

なぜ、商業高校と大学を結んで 7 年一貫教育を行うのか。専門職（プロ）を育成するためである。近年、商業高校から進学する生徒が増加しており、高等教育を前提とした商業教育のあり方について考える必要性が高まっている。大阪市の高大 7 年一貫教育のビジョンの基底には、商業高校と商学部等の連

も く じ

大阪ビジネスフロンティア高等学校の 開設について ……………	1	地域ブランドの創造と地域活性化の 取り組みについて ……………	11
高大連携の現状と展望 ……………	5	変化する現代市場のキーワード ……………	15
東日本大震災に寄せて ……………	9	インターンシップの評価を考える ……………	17

携によって、ビジネスの専門職（プロ）を育成する優れた教育システムをつくれないう問題意識がある。戦後の商業高校は高度経済成長の進展の下で、経済社会の情報化やサービス化に対応しつつ、主として事務や販売などの仕事に就きたい生徒・保護者のニーズに応じてきた。しかしながら、これからの商業高校は、知識基盤社会の進展に対応して、大学等と連携して、より高度な専門性を備えた職業人を育成することを視野にいれなければならない。

(2) めざす人材像

めざす人材像としては、総務部門、財務部門、販売部門、サービス部門、調査研究部門、企画部門、広報部門などの各部門のリーダーや全社的プロジェクトのリーダーとなる「企業組織におけるリーダー」、新しい事業を起こしたり、家業を継承・発展させたりする「企業家」、公認会計士、税理士などの「資格を伴う専門職」、高校教員、大学教員などの「教育職」などが考えられる。このような専門的な職業分野で活躍するリーダーを育成するには、専門性という核を持ちつつ、大学教育を受けるための普通基礎学力も有する、そういった生徒を育成する必要がある。OBFがめざす商業高校と商学部等を繋いだ高大7年一貫教育は、その要請に応えるべく設計されている。

2. 7年一貫教育の基本構造

(1) 7つのステップと3つの段階

OBFの7年一貫教育は、大きく3つの段階からなり、Step 1～2では、言語力の育成と資格取得をめざし、Step 3では進路別学習、Step 4～7では、連携大学において、OBFでの学習を活かした特別プログラムを実施する。

STEP 1～2 (高校1～2年生)
言語力の育成 文章を読み取る力、表現するための力の育成 (国語力・英語力の強化) 高いレベルの資格取得 「英語」「情報」「会計」の3つのスキルは、 大学進学への「カギ」
STEP 3 (高校3年生)
夢を実現するために 一人ひとりの進路希望に応じた「選択科目」 夢をキーワードにビジネスのテーマ別学習

STEP 4～7 (大学1～4年生)

ビジネスのプロを目指す
専門性を高める連携大学ごとの高大連携教育
高度な専門教育のための特別プログラム(注)や
ゼミナールによる人材育成
注 例えば、関西大学商学部のALSP(会計
連携特別プログラム)や、BLSP(ビジ
ネスリーダー特別プログラム)などの、
より専門性の高い教育システム

(2) 専門性はキャリア教育の中核である

東京大学大学院の本田由紀教授は、キャリアの中核には「柔軟な専門性」というものが必要であると、専門性が中核にない、即ち自分のできる範囲が明確に意識できないキャリア教育はむしろ有害であると述べている。

「柔軟な専門性」の獲得という点で、商業高校は優れたシステムを有している。高校生という発達段階は具体的操作を丁寧に繰り返して抽象的本質的理解をするのに適している。商業高校では簿記や情報処理等のスキルの習得のために十分な実習時間を確保しており、普通科出身生徒が商学部等で取得する資格の多くは商業高校在学中に取得している。つまり、商業高校生の多くは、キャリアの中核を形成する専門性について、明確な意識と到達水準を持っているのである。これが、商業高校を基盤とした高大一貫ビジネス教育の優位性である。

(3) 連携大学における特別プログラム

次に、連携大学における特別プログラム等であるが、OBFの高大一貫教育の目的は、高校と大学がカリキュラム上で緊密な連携をして人材を育成することであり、単なる推薦枠の確保のためではない。したがって、各連携大学には、OBFでの学びを活かせるような特別プログラムやゼミナールの選択の中に一定の仕組みをつくっていただくようお願いをしている。この特別プログラムは、各連携大学がそれぞれのカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに基づいて設計するものだが、高校と大学の密接な連携によって、高度な専門職（プロ）の基盤をつくるものであるという点では共通している。

連携大学である関西大学では、この特別プログラムのひとつとして、「ALSP」(Accounting Linkage Special Program)という会計連携特別プログラムを準備している。関西大学は、このプログラ

ムを会計分野をコアとする商業高校（OBFが中心）と商学部および大学院との連携を重視するプログラムとして位置づけている。また「BLS P」（Business Leader Special Program）というビジネスリーダー特別プログラムもあり、英語に強いプロアクティブ・リーダーの養成を目指し、プロジェクト実践力と英語力を強化するプログラムも用意されている。

（4）特別入学制度

OBFは、現在、3つの大学（大阪市立大学、関西大学、関西外国語大学）と連携している。この3大学へは、高校3年間で一定の学習成績を修め、「英語」「情報」「会計」等の分野のライセンスをいくつか取得することにより、特別枠や推薦入試によって入学できるようになっている。

—特別入学制度で用いられるライセンスの例—
（大学により取得しなければならない資格は異なる）

英語	実用英語技能検定、全商英語検定、TOEIC 等
情報	ITパスポート、全商情報処理検定 等
会計	日商簿記検定、全商簿記検定 等

例えば、関西大学商学部および関西外国語大学国際言語学部には、それぞれ約20名が特別入学制度で進学できる。大阪市立大学商学部には、大阪市内の商業系学科を対象とした推薦入試制度により進学できる。

3. ほんまものビジネスを学ぶ

OBFでは、ビジネスに関する専門性の高い教育を行う。大阪風に表現すれば、「ほんまものビジネス」を学ぶのである。これは、3つの柱からなる。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 高大接続科目による大学水準の授業 2. 国際ビジネス社会に通用する教養や言語力の育成 3. 大学や企業からの充実した支援 |
|---|

（1）経営リテラシーによる大学との接続

まず、OBFの教育では、ビジネスを取り巻く経済環境の理解や法的なものの見方、マネジメントと会計情報の関連や情報技術の必要性などについて大局的に学ぶことが重要であるとの観点から「経営リテラシー」という概念を導入した。この概念は、日本学術会議・経営学委員会・経営リテラシー分科会で議論されており、「経営リテラシーの定着に向けて」という標題で、10の分野と100の基本概念と

して整理が試みられている。開設準備プロジェクトでは、関西大学商学部の資料提供と提言を受けて、商業高校3年間を通して経営リテラシー教育を行うこととし、次の9単位を教育課程に組み込んだ。

1年生「ビジネス基礎」	3単位
2年生「ビジネス・マネジメントⅠ」	3単位
3年生「ビジネス・マネジメントⅡ」	3単位

また、大学の支援を受けて、経営リテラシーを教材化することとし、関西大学副学長の廣瀬幹好教授に「ビジネス基礎」の副教材としてグローバルビジネスの担い手を育てるための「ビジネス・アイ」を執筆していただいた。高校側はこの教材を用いて探究型学習をするためのワークブックを開発した。この教材は、経済社会の基本的な仕組みを理解するだけではなく、企業と社会を正しく見る眼を養い、ビジネスの存在意義とビジネスに携わる誇り、ビジネスを学ぶことの意味や面白さなど、ビジネスマインドを学ぶことのできる優れた教材である。

（2）国際教養や言語力の育成

OBFでは、キャリアの中核となる英語を専門教科として位置づけている。1年生・2年生では専門英語を必修で12単位履修するが、標準的な商業科に比べて約1.5倍の単位数を確保している。また、3年生では必修で4単位学ぶとともに「異文化理解」「時事英語」「英語演習」などの選択科目を6単位開設して専門英語の強化を図っている。これにより、英語は必修16単位、選択6単位の最大22単位履修することが可能となる。

1年生	「総合英語」(4)	「英語表現」(2)
2年生	「英語理解」(4)	「英語表現」(2)
3年生	「英語理解」(4)	
	選択科目 (6) 2単位×3科目	

日本の英語教育は実用的な語学力をめざして改革を進めてきたが、OBFでは、海外姉妹校との交流やビジネスプランを英語でプレゼンテーションする国際大会を開くなど、国際ビジネス社会に通用する教養も身につけ、コミュニケーション能力と語学のスキルを併せ持った人材を育成したい。

（3）大学や企業からの学術支援

OBFの経営リテラシー教育には「ビジネス・アイ」を教材として用いるが、単元のはじめや終わり

には、企業担当者や大学教員を招聘して当該のビジネスに関する特別講座を開催するなど、経済社会の実態に即した学習を行う。学術支援をお願いする大学としては、近畿圏の有力大学を予定している。また、産業界からは、大阪商工会議所の会員企業や大阪企業家ミュージアムに展示されている「大阪にゆかりのある企業105社」の中から参画いただく予定である。

(4) 考える力の育成

OBFでは「考える力」の育成に向けて、経営リテラシー教育において探究型学習を導入する。探究型学習は1年生の「ビジネス基礎」から始まる。例えば、衣食住のビジネスについて学ぶとき、コンビニの品揃えや付帯施設、経営方針などについて実際に出向いて調査し、分析し、発表する。この探究的学習を「ビジネスマネジメントⅠ・Ⅱ」で発展させ、3年生の「課題研究」では、全国生徒商業研究発表大会や各大学が主催するビジネスプランコンテストなどにチャレンジさせ、完成させるのである。

4. 教育課程と資格取得の基本方針

教育課程は、週あたり3日7時限授業を行い、標準的な単位数より9単位の増を図る。これにより主として言語力の強化と数学の3年間の必修化を行い、商学部や経営学部で学ぶための普通基礎学力の強化を図る。資格の取得については、学校の基本方針として、1～2年生では「英語」「情報」「会計」のみ取得し、珠算・電卓やワープロ等の資格については3年生から希望進路に合わせて取得する。

おわりに

今後、OBFがめざすべき方向性は、地元を中心とした多くの有力大学とビジネスリーダーを育成する高大一貫の教育プログラムを構築していくことである。もちろん、就職希望者には、母体校の指定校求人を引き継いで、優良企業への就職も保障していく必要がある。

OBFのめざす教育が全国の商業高校のめざすべき方向のひとつになればと願っている。

平成24年度入学生 教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	国語総合 (4)	現代社会 (2)	数学Ⅰ (3)	科学と 人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	総合英語 (4)	英語表現 (2)	情報処理 (3)	簿記 (5)	ビジネス基礎 (3)	HR (1)																					
2年	現代文 (4)	日本史B (2)	数学A (2)	化学基礎 (2) 生物基礎 (2)	体育 (2)	保健 (1)	英語理解 (4)	英語表現 (2)	情報演習Ⅰ (4)	会計 (3)	原簿計算 (3)	ビジネス マネジメントⅠ (3)	HR (1)																				
3年	国語演習 (4)	日本史B (2)	世界史A (2)	数学Ⅱ (2)	体育 (2)	家庭基礎 (2)	専攻Ⅰ 英検Ⅰ 書道Ⅰ (2)	英語理解 (4)	選択Ⅰ (2)	選択Ⅱ (2)	選択Ⅲ (2)	課題研究 (3)	ビジネス マネジメントⅡ (3)	HR (1)																			

選択科目	〈共通科目〉	現代文演習	国語表現Ⅰ	古典精読	小論文演習	日本史演習	政治・経済	数学B	生物演習	化学演習
		ライフスポーツ	フードデザイン	英語演習(4)	異文化理解	時事英語	韓国・朝鮮語	中国語		
	〈商業科目〉	会計実務(4)	情報演習Ⅱ(4)	ビジネス計算	プレゼンテーション	Webデザイン	流通デザイン			
		オフィスデザイン(※CAD演習)	総合実務	マネジメント演習	ビジネスマナー	コンピュータ会計				

シンポジウム「経営教育の高大連携」のご案内

関西大学大学院教授 柴 健次

来る11月20日(日)14時30分から、関西大学千里山キャンパス100周年記念会館において、大阪市立「新商業高校」の構想を柱に標記のシンポジウムを開催いたします。パネリストとして大阪市立天王寺商業高等学校長 木口誠一先生と文部科学省初等中等教育局教科調査官 西村修一先生に加わっていただきます。参加費は無料で事前の申し込みもありません。多数の先生のご来場をお待ち申し上げます。

問合せ先：kenshiba@kansai-u.ac.jp 柴 健次 準備委員長